

令和4年度 第2回 引佐北部小中学校 学校運営協議会

司会：教頭

1 会長あいさつ

2 校長あいさつ

3 議長の選出

4 前回会議録確認＊

5 熟議

議長：

委員

(1) 学校評価アンケートについて＊

教頭

(2) 令和5年度学校運営について＊

教頭

(3) その他

6 連絡事項

教頭

(1) 次回の開催日時 11月24日（木）本校図工室
同日授業参観(13:40-14:30)からお越しく下さい

(2) 次年度以降の委員について

(3) 次回の熟議内容

(4) その他

7 市教委総務課から

＊ 資料有

7月6日（水）午後3時～4時30分 本校会議室

令和4年度 第1回 引佐北部小中学校 学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年 5月12日（木） 15時から16時30分まで
- 2 開催場所 引佐北部小中学校 図工室
- 3 出席委員 夏目 稔三、西岡 祥一、五十川亜純、鈴木 知成、岡部 裕子、西本 有一、
山本 培代、廣瀬 稔也、池本 知充
- 4 欠席委員 池田 信子、鈴木 計芳、加藤 隆康、小林 成彦
- 5 学校支援コーディネーター 廣瀬 稔也
- 6 学 校 遠藤 健司（校長）、山下 剛功（教頭）、遠藤 淳平（担当職員）、
田力 里枝（CSディレクター）
- 7 教育委員会 小川 誠司（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - （1）会長あいさつ
 - （2）校長あいさつ
 - （3）新規委員任命書交付
 - （4）自己紹介
 - （5）浜松市学校運営協議会規則確認
 - （6）議長の選出について
 - （7）前回議事録確認
 - （8）熟議
 - 【1】令和4年度学校運営の基本方針について 校長
 - 【2】夢育やらまいか事業に対する意見書について 教頭
 - （9）連絡事項 教頭
 - （10）市教委総務課から
- 10 会議録作成者 CSディレクター 田力 里枝
- 11 会議記録

教頭より、委員総数13人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）会長あいさつ

運営委員会も3年目になった。未来に希望を持った学校の学びを目指したい。

（2）校長あいさつ

新年度が始まって1ヶ月あまりが過ぎたが、児童生徒みな元気に過ごしている。

（3）新規委員任命書交付

新しいメンバーの池本知充さんの紹介があった。

(4) 自己紹介

各自、ひとことずつ自己紹介をした。

(5) 浜松市学校運営協議会規則確認

総務課の小川さんから、浜松市学校運営協議会規則（別冊）の要点説明があった。

(6) 議長の選出について

今回の議長を西本委員に依頼し、全員異議なくこれを承認した。

(7) 前回議事録確認

前回の会議録の資料を各自で見えていただくようお願いした。

(8) 熟議

【1】令和4年度学校運営の基本方針について

学校教育目標は「心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成」、副題を「ふるさとを愛し、ふるさとの自治を担う」とした。本年度のキーワードは「たくましさやさしさ、そしてかしこさを身に付けよう」とし、子どもたちに投げかけている。先生の中には、教室に掲示して意識付けをしている人もいる。

ふるさと科の再編は3年計画の最終年度になった。教科とふるさと科の関連性を意識して指導をすすめる。

国際コミュニケーション科を全ての教員が携わるようにしていく。英語に限ることなく、世界に目を向けられるような授業作りを、担任と英語教員で行う。

いじめについて。子供のいじめの表れを見逃さない。早期発見、丁寧な対応を進める。

以上のように、別紙資料に基づき学校運営基本方針について校長から説明があり、以下の熟議がされた。

- ・昨年度の協議会の意見を取り入れてくれてありがたい。それぞれの学年で学ぶべきことはしっかり身に付けさせることが、まずは大事である（夏目委員）
 - ・ふるさと科、国際コミュニケーション科は10年を過ぎて、ふり返る時期に来ている。昨年の9年生はコミュニケーションの活性化を目指して、ベンチプロジェクトを実現させた。子どもたちなりの課題のとらえ方があり、それが成功体験に繋がるといい。販売に限らず、いろいろな経験ができるようにさせたい。（廣瀬委員）
 - ・ベンチプロジェクトは地域の方の協力もいただきながらできた。きりやま販売は学年を越えての活動なので、個人の考えや探究からは外れる面がある。今年は人数減少により、課の再編が必要になっている。生徒主導ですすめているので進捗は早くはない。（遠藤校長）
 - ・ベンチプロジェクトを多くの委員が知ったのは昨年の10月。ふるさと科は授業なので委員が入って行きにくい。1年間でまとめるには、4、5月に地域に出て、聞き込みをして発展させていくことも考えて欲しい。（夏目委員）
 - ・棚田の指導をしているが、棚田の特徴以外に、稲作りの基本を知って欲しいという思いがある。地域に出て調べて欲しい。（西本委員）
 - ・田に関わる様々な事柄が探究のヒントになるのではないかと。（夏目委員）
- 作物を作ること、1年で結果が出るものは、体験の材料としていいと思う。（西本委員）

- ・きりやまの活動の中で、子供だけでできない部分を保護者や大人が携わることはできないか。ベンチプロジェクトでは組み立ての時に、子供だけで役割分担を上手にやれていた。できな
いと子供に声を上げさせることも一つの知恵と思う。(五十川委員)
- ・ありがたい意見。子供に伝えたい。ベンチプロジェクトの成功体験は将来生きてくると思う。
(山下教頭)
- ・色々なご意見をいただき非常にありがたい。今は取組時間が思うようにとれないのが問題だ。
今年度は再編を第一課題にしたい。(遠藤校長)
- ・どうやってふるさと科で力を付けさせるかを考えてすすめている。協議会での熟議も反映さ
せていきたい。(遠藤教諭)
- ・販売活動の中で、脱プラスチックの発想も生かしたい。(廣瀬委員)
- ・SDG'sは学校としてはどう取り組んでいるか。(西本委員)
- ・学校としての特別な取組はないが、浜松市として取り組んでいるものに合わせ、各教科・領
域でできる範囲で指導内容に組み入れている。(遠藤校長)
- ・子供の力を伸ばす経営になっている。教科の学びの充実がふるさと科につながる。(西岡委
員)
- ・いじめに関して。自己肯定できるところを見つけてほめたい。(山本委員)

協議の結果、全員異議なく令和4年度学校運営の基本方針について承認した。

【2】夢育やらまいか事業に対する意見書について

意見書の様式の説明が教頭よりあった。

(9) 連絡事項

- ・次回の協議会は7月6日(水)に本校で行う。(山下教頭)
- ・次回の熟議事項に希望があれば、学校まで連絡ください。(山下教頭)
- ・4月28日に行われた☆未来デザイン会議ミーティングについての報告があった。今年度か
ら☆未来デザイン会議組織委員会が地域学校協議本部となり実働機能を担っていく。(資料
参照)(廣瀬委員)

(10) DVDの視聴。学校運営協議会委員研修会での講話を視聴した。

- ・今やっている会議が視聴していることと同じ。ふるさと科、国際コミュニケーション科への
考え、意見交換をするのが、意味のあること。(総務課小川)

令和4年度 学校評価アンケート項目

項目	初等部	中部部	高等部	保護者	職員
1 自己を知る	目標を決めて学習に取り組んだ。	目標を決めて学習に取り組んだ。	自分の目標や将来を夢に向けて学習に取り組んだ。	お子さんは自分の目標や夢に向けて学習に取り組むことができる。	児童生徒は自分の目標や夢に向けて学習に取り組むことができる。
2 他者を知る	周りの人と話し合ったり、協力したりしながら活動できた。	周りの人と話し合ったり、協力したりしながら活動できた。	周りの友達や大人とのかかわりを大切にしながら生活できた。	お子さんは周りの友達や大人との関わりを大切にしながら生活することができる。	児童生徒は周りの友達や大人との関わりを大切にしながら生活することができる。
3 体力の向上	体育の授業やお昼休みに体を動かすことができた。	体育の授業や部活動で体を動かすことができた。	体育の授業や部活動で体を動かすことができた。	お子さんは運動することができた。	児童生徒は運動することができた。
4 授業	学校の授業で自分の学力をつけることができた。	学校の授業で自分の学力をつけることができた。	学校の授業は自分の学力をつけるための手助けとなった。	学校の授業はお子さんの学力をつけるための手助けとなっている。	学校の授業は児童生徒の学力をつけるための手助けとなった。
5 授業改善	授業の内容は分かった。	授業の内容は分かった。	授業の内容を分かっている。	お子さんは学校の授業内容を分かっている。	児童生徒は学校の授業内容を分かっている。
6 ICTの活用	学校でテレビやタブレット、パソコンなどの情報機器を使って勉強した。	学校でテレビやタブレット、パソコンなどの情報機器を使って勉強した。	学校でテレビやタブレット、パソコンなどの情報機器を使って勉強した。	学校は情報機器を活用している。	学校は情報機器を活用している。
7 家庭学習	家庭学習に取り組んだ。	家庭学習に取り組んだ。	家庭学習に取り組んだ。	お子さんは家庭学習に取り組んでいる。	児童生徒は家庭学習に取り組んでいる。
8 あいさつ	あいさつができた。	場に応じたあいさつができた。	場に応じたあいさつができた。	お子さんは場に応じたあいさつができる。	児童生徒は場に応じたあいさつができています。
9 地域参加（他者を知る）	地域の人に教えてもらったり、一緒に活動したりした。	地域の人に教えてもらったり、一緒に活動したりした。	地域の人に教えてもらったり、一緒に活動したりした。	学校は家庭・地域と連携・協力している。	学校は家庭・地域と連携・協力している。
10 ふるさと科	「ふるさと科」等の学習を通して、地域のことを知ることができた。	「ふるさと科」等の学習を通して、地域の人々の思いを知り、ふるさとについて考えることができた。	「ふるさと科」等の学習を通して、地域のよさを生かした活動ができた。	学校は「ふるさと科」等の学習を通して、地域のよさを生かした教育活動ができています。	学校は「ふるさと科」等の学習を通して、地域のよさを生かした教育活動ができています。
11 国際コミュニケーション科	「国際コミュニケーション科」の学習を通して、英語に親しみ、コミュニケーション活動を楽しむことができた。	「国際コミュニケーション科」の学習を通して、英語で積極的に取り組んだり、外国の文化や世界情勢について関心を深めたりできた。	「国際コミュニケーション科」の学習を通して、英語で積極的に活動に取り組んだり、多くの課題や問題について、地球的視野に立ち、主体的に自分の意見を発表したりできた。	学校は「国際コミュニケーション科」の授業を通して、子供の英語の表現力を育て、国際社会への理解を深めている。	学校は「国際コミュニケーション科」の授業を通して、子供の英語の表現力を育て、国際社会への理解を深めている。
12 行事	学校行事に一生懸命に取り組んだ。	学校行事で成長することができた。	学校行事で成長することができた。	学校の計画する学校行事は、子供を成長させる場になっている。	学校の計画する学校行事は、子供を成長させる場になっている。
13 子供理解	先生は自分の話を聞いてくれる。	先生は自分のことを分かってくれている。	先生は自分のことを理解している。	学校は一人ひとりの子供のことを理解し、個を生かす教育活動を行っている。	学校は一人ひとりの子供のことを理解し、個を生かす教育活動を行っている。

令和4年度1学期 引佐北部小中学校の取り組みを紹介します

本校では、学校教育目標「心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成 ～ふるさとを愛し、ふるさとの自治を担う～」の実現に向けて、教育活動に取り組んでいます。本年度は、初等部・中等部・高等部の目指す子供の姿を明確にし、9年間を通して子供を育てる小中一貫校としての強みを生かした教育に力を入れています。本年度も、新型コロナウイルス感染症の対応をしつつ、教育活動を進めてまいりました。

この参考資料をもとに以下のアンケートに御回答下さい。

項目1 お子さんは自分の目標や夢に向けて学習に取り組むことができます。

様々な活動の前には、目標を設定し、活動に取り組んでいます。活動を終わると、振り返りを行い、次の活動へとつなげるように取り組んでいます。



項目2 お子さんは周りの友達や大人とのかかわりを大切にしながら生活することができる。

日々、友達と一緒に活動に取り組んでいます。話し合い活動など、自分の意見を伝えたり、友達の意見を聴いたりしてよりよい考えにまとめる活動も行っています。また教師を含め、大人とのかかわりの中で自分の考えを深める活動を進めています。



項目3 お子さんは運動することができます。

学校では、体育の学習を中心に体を動かしています。また、昼休みには元気いっぱい遊ぶ児童生徒の姿が見られます。



項目4 学校の授業でお子さんの学力はついている。

項目5 お子さんは学校の授業内容を分かっている。

学校では児童生徒一人ひとりの学力を高めようと活動の工夫を行っています。



項目6 学校は情報機器を活用している。

タブレットパソコンやテレビを児童生徒の考え方の手助けとなるよう活用しています。



項目7 お子さんは家庭学習に取り組んでいる。

学校で学んだことを生かして家庭学習に取り組んだり、これから学ぶことを自分なりにあらかじめ学んでいたりするなど、様々な取り組み方があります。

項目8 お子さんは時と場に応じたあいさつができています。

朝には元気のよい「おはようございます」が校舎に響きます。廊下ですれ違う際には「こんにちわ」のあいさつや会釈をする児童生徒が多くいます。学校の来校者にもきちんと挨拶することができています。



項目9 学校は家庭・地域と連携・協力している。

登下校の見守り、学習のボランティアなど、家庭や地域のみなさんのお力を借りて学校運営を進めています。



項目10 学校は「ふるさと科」等の学習を通して、地域のよさを生かした教育活動ができています。

1・2年生は、「みさとの自然」に触れる活動を中心に活動しています。3年生は「渋川茶」について学びます。4年生は「久留女木の棚田」について学びます。5年生は、引佐地域の文化や歴史を深く探究します。6年生は、今まで学んできたことを基にこの地域にかかわる人に焦点を当ててその人の思いや考えに触れます。7・8・9年生は、小学校6年間で見つめてきた引佐北部地域の現状から課題を見つけ、模擬会社「きりやま」の運営を通して「引佐地区のよりよい未来とは」の解を見出します。



項目11 学校は「国際コミュニケーション科」の授業を通して、子供の英語の表現力を育て、国際社会への理解を深めている。

小学校では、異文化や言語に慣れ親しみ、興味関心をもって積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てています。中学校では、日本の郷土の伝統や文化のよさを理解し、異文化や言語に対する興味関心を持ち、文化やものの見方・考え方・感じ方の違いなどの相手の立場を踏まえて、積極的に英語でコミュニケーションを図っています。



項目12 学校の計画する学校行事は、子供を成長させる場になっている。

今年度より、学校の大きな行事の一つである運動会を5月に行いました。年齢の異なる児童生徒が力を合わせる活動を通して、児童生徒のすてきな姿を見ることができました。



項目13 学校は一人ひとりの子供のことを理解し、個を生かす教育活動を行っている。

学校では、教育活動への児童生徒の思いや願いに耳を傾け、児童生徒の思いや願いをかなえるために、支援を行っています。



令和4年度 引佐北部小中学校 保護者学校評価アンケート（1学期）



*必須

お子さんの学年を入力してください*

- ☐ 1年生
- ☐ 2年生
- ☐ 3年生
- ☐ 4年生
- ☐ 5年生
- ☐ 6年生
- ☐ 7年生
- ☐ 8年生
- ☐ 9年生

よろしければ、お子さんの名前を入力してください

回答を入力

お子さんは自分の目標や夢に向けて学習に取り組んでいる*

- ☐ とてもそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ あまり思わない
- ☐ まったく思わない
- ☐ わからない

お子さんは周りの友達や大人との関わりを大切にしながら生活をしている*

- ☐ とてもそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ あまり思わない
- ☐ まったく思わない
- ☐ わからない

お子さんは運動することができている*

- ☐ とてもそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ あまり思わない
- ☐ まったく思わない
- ☐ わからない

学校の授業でお子さんの学力はついている*

- ☐ とてもそう思う
☐ そう思う
☐ あまり思わない
☐ まったく思わない
☐ わからない

お子さんは学校の授業内容を分かっている*

- ☐ とてもそう思う
☐ そう思う
☐ あまり思わない
☐ まったく思わない
☐ わからない

学校は情報機器を活用している*

- ☐ とてもそう思う
☐ そう思う
☐ あまり思わない
☐ まったく思わない
☐ わからない

お子さんは家庭学習に取り組んでいる*

- ☐ とてもそう思う
☐ そう思う
☐ あまり思わない
☐ まったく思わない
☐ わからない

お子さんは時と場に応じた挨拶ができています*

- ☐ とてもそう思う
☐ そう思う
☐ あまり思わない
☐ まったく思わない
☐ わからない

学校は家庭・地域と連携・協力している*

- ☐ とてもそう思う
☐ そう思う
☐ あまり思わない
☐ まったく思わない
☐ わからない

学校は「ふるさと科」等の学習を通して、地域のよさを生かした教育活動ができています *

- ☐ とてもそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ あまり思わない
- ☐ まったく思わない
- ☐ わからない

学校は「国際コミュニケーション科」の授業を通して、子供の英語の表現力を育て、国際社会への理解を深めている *

- ☐ とてもそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ あまり思わない
- ☐ まったく思わない
- ☐ わからない

学校行事は、子供を成長させる場になっている *

- ☐ とてもそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ あまり思わない
- ☐ まったく思わない
- ☐ わからない

学校は一人ひとりの子供のことを理解しようとし、個を生かす教育活動を行っている *

- ☐ とてもそう思う
- ☐ そう思う
- ☐ あまり思わない
- ☐ まったく思わない
- ☐ わからない

本校をよりよくしていくために、お気付きの点や御意見があればお書きください。○本校の子供たちの表れで、良かったところやがんばっていることでお気付きのことがあればお書き下さい。

回答を入力

送信

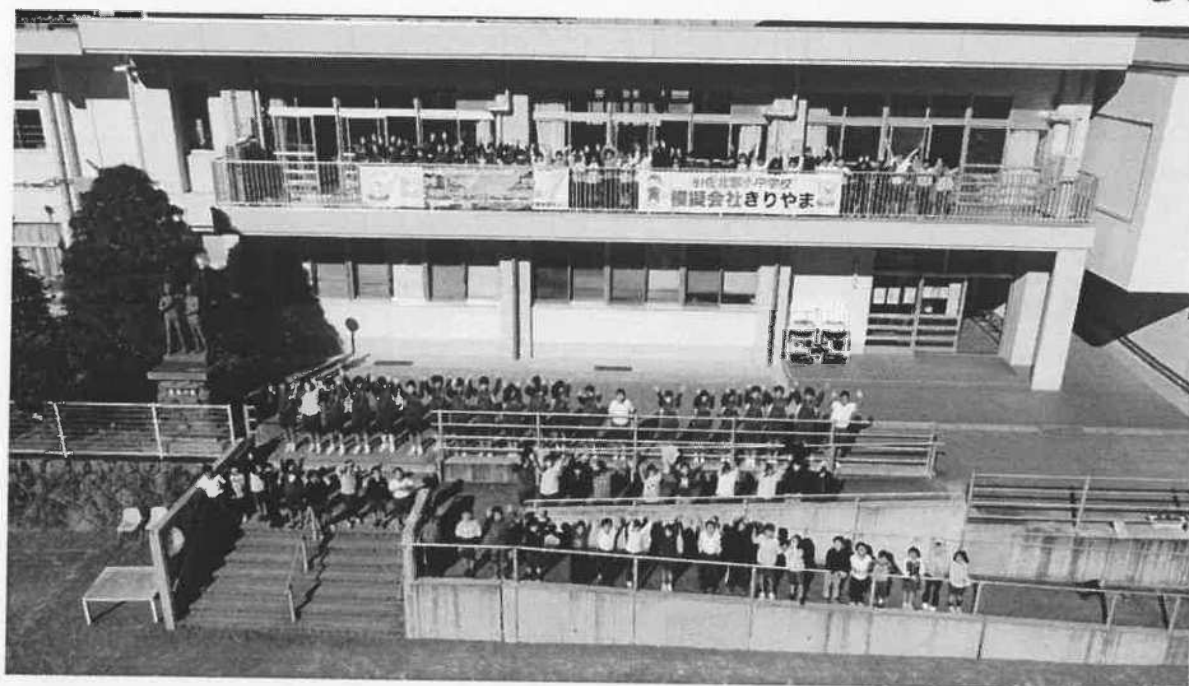
フォームをクリア

Google フォームでパスワードを返信しないでください。

このフォームは、~~海城市教育委員会~~内部で作成されました。不正行為の検出

Google フォーム

引佐北部小中学校へ入学しませんか



令和2年11月撮影

浜松市では、各小・中学校区に通学区域（以下「学区」）を設けていますが、平成24年4月に県内初の小中一貫校として開校した「引佐北部小中学校」は、学区外に居住する児童も入学することができます。

自然豊かで地域の皆さんが温かく見守ってくださる引佐北部小中学校でお子さんを伸び伸びと学ばせませんか。教室のつくり自体が少人数対応になっているので、最大で14名程度の各学年単学級です。令和4年6月1日現在の児童生徒数は1年9名、2年4名、3年7名、4年11名、5年9名、6年11名、7年14名、8年10名、9年11名の全校86名です。そして、本校の教職員は非常勤、ALT、図書館補助員、派遣用務員を含め、40人です。多くの大人が子供たちの学びと成長に関わっています。

本校の特色としては、「小中一貫による4・3・2のブロック制」「教育課程特例校の指定による『ふるさと科』『国際コミュニケーション科』の設置」等です。詳細については、裏面に掲載したので御覧ください。

お問い合わせは教頭・山下（電話053-528-3131）までお願いします。

住所：浜松市北区引佐町四方浄134-6 Mail：inasahokubu-ej@city.hamamatsu-szo.ed.jp

受け入れ人数は9月頃に浜松市教育委員会教育総務課より発表されます（令和4年度新1年は10人程度でした）。入学申請人数が受け入れ予定人数を超えた場合は、下の優先順位により入学が許可されます。同一の優先順位内で受け入れ予定人数を超えた場合は、抽選により入学者が決定されます。

優先順位

第1順位	引佐北部小中学校の隣接学区に居住する児童
第2順位	その他の学区に居住する児童



本校HPのQRコード

★ 引佐北部小中学校の特色 ★

■小中一貫による4・3・3・2のブロック制

本校は、静岡県内初の施設一体型小中一貫校として平成24年4月に開校しました。一般の6・3制ではなく、1～4年初等部・5～7年中等部・8～9年高等部の4・3・2のブロック制を採用しています。このブロック制は、小中それぞれの学校段階を超えたつながり（接納の円滑化）だけでなく、小学校段階内や中学校段階内での異なる学年のつながりも含め、9年間の系統性・連続性を重視しています。

そのブロック制を活かした取組として、行事や授業での異学年交流、親睦を深めるブロック集会や7年生がリーダーシップを発揮する中等部宿泊体験が実施されています。

■教育課程特例校の指定

平成24年4月、文部科学省より、特別的教育課程を編成・実施する教育課程特例校の指定を受けました。これにより、地域のひと・もの・ことを知り、学び、伝え、将来を考える「ふるさと科」、小1より外国語活動を始め、言語や文化を体験的に学び、コミュニケーション能力を養う「国際コミュニケーション科」を新設しました。開校当初より、両教科を結びつけて国際人の資質を養う授業を行っています（詳細次ページ）。

■模擬会社きりやま

ふるさと科の学習の一環として7～9年生は「模擬会社きりやま」を経営しています。これは、一貫校設立前の引佐北部中学校で平成20年度から行っている会社経営体験活動です。地域資源を活用した商品開発・販売といった会社経営を通して地域貢献を考え、社会人として必要なコミュニケーション力や問題解決力を育むことを目的としています。

■コミュニティ・スクール

平成28年度、浜松市のコミュニティ・スクール推進モデル校に選ばれました。現在、引佐北部小中学校「学校運営協議会」は14名（学校支援コーディネーター3名を含む）の委員で構成され、年5回開催しています。

「地域とともにある学校づくり」「学校を校とした地域づくり」の推進を掲げ、児童・生徒の学びの支援の他、サマースクールなどの開催、「コミスクだより」の発行、図書館開放などの活動を展開しています。

コミュニティ・スクールの活動を伝える「コミスクだより」より



■特色ある2つの教科

世界にはばたく、真の国際人に！

「ふるさと科」

地域のひと・もの・ことを知り、学び、将来を考えます。

○「模擬会社きりやま」の運営

○カプトムシの飼育、自然薯・シイタケの栽培、そして販売

○植樹活動、ビオトープ管理などの環境保全活動

○キャリア体験（8年）



高 等 部

○「模擬会社きりやま」の運営（7年）

○キャリア体験（7年）

○ふるさと追究活動（5, 6年）

○先人の生き方を学ぶ（5, 6年）

○寺野ひよんどり



中 等 部

○ふるさと体験・調査

○棚田の米作り

○ギフチャウウ、ホタルの調査

○幼児・園児・お年寄りとの交流



初 等 部



「国際コミュニケーション科」

小1より外国語活動を始め、言語や文化を体験的に学び、コミュニケーション能力を養います。

○「ふるさと科」の学習成果を英語で発信

○身に付けた英語の「読み」「書き」の基礎基本を活用した表現活動

○英語検定に挑戦（後援会の支援）



○中学校専科教員による授業



○1年から外国語専科教師&ALTによる授業
○ゲーム・歌など楽しい外国語活動（1, 2年）
○初歩的な外国語によるコミュニケーション活動（3, 4年）

